

特集

心躍らす信州中野の夏祭り

～中野ションションまつり・中野祇園祭～

毎年7月中旬から下旬にかけて行われる中野祇園祭と中野ションションまつり。

威勢のいい掛け声とともに市街地を練り歩くみこしや、聞こえてくるションションばやしのメロディーは、いつの世も人々の心を躍らせ、信州中野に本格的な夏の訪れを感じさせます。

ションションばやし

佐伯孝夫 作詞
渡久地政信 作曲
寺岡真三 編曲

雪がとけたら リンゴの花の
香り身にしむ 中野市よ
ここは日本の 大屋根小屋根
古いつたえの おらが里
※ヨー ションションション
ションションション
ションション

町が市となり ふたとせすぎた
祝いはやせや この栄え
うたの中山晋平さんの
うまれなされた よいところ
※(以下くりかえし)

リングつむ娘がかわゆてならぬ
紅い頬して 清い肌
糸を引いた手 いまでも器用
引くな他国の 旅の風
※(以下くりかえし)

無相大師を 拝がみ仰ぎ
街をちよっと出りゃ 善光寺
めぐる山川 湯けむりスキー
二度も三度も またおいで
※(以下くりかえし)

ションションまつりが
できるまで

世相が反映され、市民の心の触れ合いや連帯感が薄れつつあった1972年、市民全員が一つになって歌い踊り、共感の場をつくることが求められていました。

そんな中、中野青年会議所が中心となって市民の皆さんの声を聞き、住民の連帯と総和楽を目標に計画立案されたものが「ションションまつり」でした。

《時系列》

- 1972年 中野青年会議所が、まつりについての市民アンケートを行い、大多数が「必要あり」と回答。
- 1973年1月 中野青年会議所に市民祭特別委員会設置。
- 同3月～6月 長野市(長野びんずる)、上田市(上田わっしょい)などを訪問し学習。市長、市議会議長、商工会議所会頭などと会談し賛同を得る。委員会を連日開催し、企画書を作成。プロジェクトチーム会議を開催し、多くの団体や有志の皆さんによって市民祭創設準備協議会を設立。

○同7月～1974年2月 市民祭についての話し合いが連日行われる。その後、具体化のための実行委員会に移行し、実現についての計画がつけられ、市民祭は市制20周年を迎える7月の第3土曜日(当時)に行うことが決定。

ションションばやし誕生

まつりのテーマとなる歌は、中山晋平先生の御息で元NHK芸能局長の中山卯郎さんに依頼して作られました。

歌のタイトルは、当地域が幕府の天領であったところから伝わっているといわれ、現在も祝い事の後に、「ヨー! ションションション」と行われる『天領締め』からとった「ションションションばやし」に決定しました。古都清乃さんと鈴木正夫さんが歌い、ビクターオーケストラの皆さんによる伴奏でレコーディングされました。

ションション踊り完成

榎茂都梅延さんによる振り付けで踊りが完成し、74年4月27日に歌と踊りの「ションションばやし発表会」が行わ

シヨンシヨン踊りを指導して42年



ありかわ
蟻川 スミ さん
千草会 会長

シヨンシヨン祭りは第1回から踊り講師として参加。長年にわたり踊り講師の皆さんのまとめ役を務める。

第1回のシヨンシヨンまつりを迎えるに当たり、踊りを趣味としている団体が集まり、市役所の屋上などで振り付けの榎茂都先生からシヨンシヨン踊りを教えていただきました。

それから各団体が講師として市内の各企業や地区で踊りの講習会を行いました。暑い中、多いときは1日に4カ所を汗だくになりながら回ったことを覚えています。

美しい踊りを多くの人に

最初の頃は、現在ほど幅が広くない通りで、たくさんの参加連が「川」を挟んで整然と踊り、その様子はとても美しいものでした。

次第に子どもたちの参加が増え、第

20回（1993年）からは仮装コンテストが始まり、第22回（1995年）からは踊りの賞が設けられるようになるなど、時代の変化に合わせてシヨンシヨンまつりも変化してきていますが、全国から見に来てもらえるような祭りにしたいという思いで、踊りの美しさを追求して指導を続けてきました。

いつまでも続いてほしい

祭り会場に行けない人も、最後の花火の音で祭りを感じ、昔参加した思い出を懐かしむことができるのではないのでしょうか。どんな時代でも一日だけは全てを忘れて踊りに興じ、音楽一つで子どもから大人までみんなで騒ぎ、市民が一つになれる。そんなシヨンシヨンまつりがこれからもずっと続いていくことを願っています。

シヨンシヨン踊りを美しく見せるポイント

①だぶり足



右足が下がった状態から、さらに右足で一步下がる。

②手を高く、指先を見る



なるべく角度をつけて手を高く上げ、視線は指先を見る。

③大きく円を描くように



手拍子と同時に右足を上げ、上から大きく円を描くように下ろした手が腰のあたりに来たタイミングで右足を着いて左足を上げ、2回目の手拍子と同時に左足を着地させる。



写真解説

右上：シヨンシヨンばやし発表会。市民約2,000人が参加。SBCラジオの生中継が行われるなど、盛大に行われた。

左上：第1回シヨンシヨンまつり。中央に見えるのは再現された「まちなまの川」。その上には「かがり火」が映える。

右下・左下：第1回シヨンシヨンまつり。大太鼓や子供みこしが練り歩き、まつりを盛り上げる。

れました。発表会の後、市内各地で講習会を行い、みんなが参加し、みんなが楽しめる市民祭へ向けて盛り上がりを図っていきました。

第1回シヨンシヨンまつり

74年7月20日、記念すべき第1回目のシヨンシヨンまつりが開催されました。

会場には、中野小唄にうたわれている「まちなまの中に川がある」を再現しようと、大門町から三好町までの間に仮設の川を造り、水を流しました。（第9回まで「川」が再現されました。）

踊りは現在のように最初か

ら会場に整列してスタートするのではなく、空っぽの中町通りの中心会場めがけて一斉に踊り込むような形をとっていました。

まつり当日は、160連、約4300人がまちなまを踊り回り、観客もあふれんばかりの約3万5千人が来場しました。

また、最初の頃は、中野祇園祭と日程を合わせており、夜のシヨンシヨン踊りまでに、昼間から、みこしや神楽、大太鼓、獅子などが町を練り歩いたほか、伝統の馬乗り行事など、「市民総和楽」の一日として盛大に行われていました。